

科目名	歴史学	担当教員	谷本晃久 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-----	------	--------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	選択	1年次	後期	1単位	講義

科目概要	現代世界とそこに生きる我々の来歴を知り、人類史のベクトルがどのような将来を指し示しているかを知ることは、現在に生きるわれわれの自己理解を深め、かつ今後の社会と文化の方向性を見極めながらいかに人生を構築すべきかを考える上で、決定的な重要性を持つ。本学で教育する歴史学は、従来しばしば見られたような歴史の細目を教える暗記型の歴史学ではなく、上記の目的を強く意識し、かつそれに即したトピックを厳選して現代に生きる人類としての自己理解を深める内容とする。かつ同時に、自らが生きる場である地域社会にも目配りができるように、北海道の歴史をも内容に含める。
学習目標	現在の自分のありようを、歴史の流れの中で理解できるようにする。併せて、北海道あるいは千歳をフィールドとした歴史学の方法論や具体的な叙述に触れ、暮らしに密着した歴史を、自らのものとして考えられるようになる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	イントロダクション	「歴史」と私たち	自らの暮らしのなかで「歴史」を意識することの意義を、具体的かつ自覚的に考えることができるようになる。	
2	「歴史」の方法	史料と資料	「歴史」の素材として、身近なメールやツイッターから古文書・古記録まで、その機能が理解できるようになる。	
3	「歴史」の目的	個人史から社会史へ	「歴史」叙述の実際として、自分史・家族史を手掛かりに、地域史・社会史の持つ意義を把握できるようになる。	
4	「歴史」と北海道	アイヌ史と北海道史	北海道地域史を主体的に考えられるようにするために、民族問題や開拓史観の問題点が理解できるようになる。	
5	「歴史」の実践	千歳から考える	地域史の実践として、私達の学ぶ千歳地域の歴史的特質を、具体的に語るができるようになる。	
6	「歴史」の世界	サンクトペテルブルクの古文書	史料群の形成史から導かれる歴史像の面白さに触れ、個別具体的なテーマ研究を理解できるようになる。	
7	「歴史」の作業場	史料調査の方法	史料調査の実際、とくに目録作成を模擬体験し、歴史の手法を理解できるようになる。	
8	まとめ		これまでの講義の要点をまとめることにより、全体像を把握できるようになる。	
評価方法	平常点（出席状況・質問票）ならびに期末試験により評価を行なう。「質問票」には、毎回の講義内容のポイントを3点にまとめ、質問や感想があれば併せて記してもらおう。期末試験は記述式をメインとし、問題意識の明確さ、叙述・文体の的確さ、などを総合的に勘案して行なわれる。評価の割合は、質問票（30%）、期末試験（70%）を目安とする。なお、2/3以上の出席が評価の前提になる。			
教科図書	講義資料を配付する。			
参考図書	講義のなかで、適宜紹介する。			
学習の準備	指定した参考書、および事前に配布した資料について予習をしておくこと。			
オフィスアワー	在室時は可能。			

担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	
-----------------------------	--